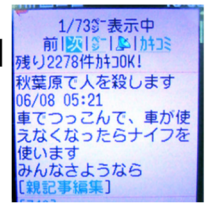


# ケータイ・ネットと子どもたちの人権

## ケータイの利用状況

### ■ホームペの落とし穴■

- 格好をつけてしまう…偽りの自分  
だます・だまされるの関係
- 思わぬ誤解を生んでしまう  
対面コミュニケーション→8割が非言語  
テキスト→2割しか伝わらない  
→誤解や悪意の拡幅
- 想像以上に人を傷つけてしまう  
「夜も眠れず、学校にも行けなくなる」  
教室で、ケータイを持っている子が怖い



究極掲示板(改)

加藤容疑者の書き込み ※佐世保事件にも通じる

- ★社会的責任感を身につける前に、  
自分に都合のよい世界を手に入れる危険
- ★直接知り合う友だちとのネットトラブルが、  
リンクやメールで友だちに一挙に広がる恐怖
- ★バーチャル(仮想)とリアル(現実)の逆転→居場所保持

## ■メールの落とし穴

### ■「教室は地雷原」■

## ■「学校裏サイト」、ホームペ・プロフ

#### 友だちづきあいの気苦労

他者とのコミュニケーションや  
多様性を学ぶ機会の減少  
→ 反差別の仲間づくり  
を難しくしているのでは？

「互いのしんどさとは向き合わない」  
「他人の存在は気にとめない」  
「他人は、盛り上がるネタでしかない」  
おたがいの悪口はさける

- ・「3分以内に返信」(即応性の呪縛)→食事中も入浴中も  
※自尊感情の不足→「つながっていないと不安」
- ・「文字」以外が見えない  
→「想像のお化け」(誤解・恠意的解釈)
- ・解釈のズレ・感情の増幅・匿名のエスカレート  
フーミング(炎上) 例えば...体育大会を休んだら。。。
- ・注意力散漫、ことば以外の表現力・理解力不足  
危うい「友だち」関係を維持するツール



## ■「教室は地雷原」

### ■ネットリテラシー教育■

★「情報を読み解く力」・「情報を発信する責任」・「自分を守る力」

- ・ ネット上の情報を、客観的に読み解く「読解力」  
「情報提供のねらいは何か？」
- ・ ネットで知り合った人と、子どもだけでは実際に会わない
- ・ 迷惑メールや中傷メール対策の「知識」  
不審メールには返信しない、チェーンメールは削除  
メールアドレスは公開しない、詐欺メールは通報
- ・ 文字だけのコミュニケーションの難しさ・ネチケットを学ぶ  
思わぬダメージ、文字は保存される、誤解されやすさ
- ・ 責任のとれない情報は発信しない、発言には責任が伴う  
※持ち物への記名=安易な匿名の否定
- ・ 情報は簡単にコピーされ、保存され、広がるという「特性」
- ・ 自分や家族の個人情報に厳重に管理する「態度」  
※安易な書き込みをしない、支払い能力を超えない

## ■取り組む視点

### ■ストリートビューの問題点■

## ■教育現場の課題

- 米国で2007年春、日本では2008年8月5日に撮影開始。
  - 欧米ではプライバシー侵害や肖像権侵害の訴訟続発。  
フランス政府は「文化の侵害だ」と強く反発。中国も反発。日本は議論なしに導入。
  - 公的施設や商業区域などは一定利便性があるかもしれないが、  
なぜ住宅街にまで無断で入り込んで撮影するのか？  
自家用車や人物が写り、撮影車のカメラは高さ2.5mで、家の中から丸見え。
  - 「削除要求」は本人限定。集合住宅の場合は居住者全員からの申請が必要。  
削除されても再び復活することが再三あり、Web上にはコピー画像が残る。  
さらには、もっと鮮明な画像の原版はG本社が保管…？
  - Z社の同種のサイトは、プライバシーや人権に対する配慮はより希薄傾向。
- ◇各地でさまざまな取り組みが始まっている。  
東京・町田市議会で「規制を求める意見書」を採択。  
大阪・茨木市議会で「市の見解」を問う一般質問。  
東京・渋谷区においても取り組む方向。
- ◇新聞やテレビなども、問題点を報道。(2008-9-2朝日)



## ■ネットの諸問題

わたしたちの人権意識が問われている！